

耳掃除、周囲に注意を

深美准教授によると、耳の奥は骨と薄い皮膚があり痛みを感じやすいため、自分で奥まで綿棒などを入れることは無いという。しかし、耳掃除中の接触で耳かき棒などが刺さり、難聴を引き起こすケースが報告されている。

最も怖いのは内耳窓（正円窓と卵円窓）が破れ、外リンパ液が内耳から中耳に漏れてしまう「外傷性外リンパ瘻」。聴覚や平衡機能といった内耳の生理機能が損傷するため進行性難聴やめまいの症状が生じる。鼻かみでも内耳に負荷がかかり発症する場合もある。

「手術で早急に破れた部分をふさがなければならぬが、難聴やめまいが治らない場合もある」という。同科では年5人ほどの術例がある。中耳まで刺さった耳かき棒を引き抜いた時に起きる可能

人とぶつかり、損傷続発



獨協医大耳鼻咽喉・頭頸部外科

深美准教授に聞く

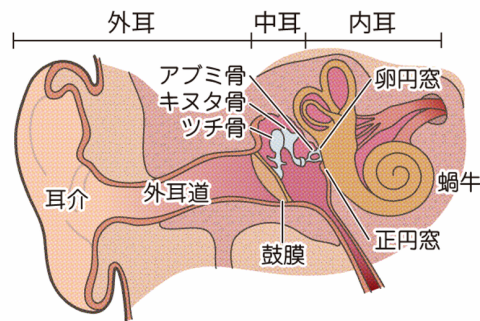
3月3日は耳の日

耳掃除が実は危険な行為であることをご存じだろうか。耳掃除中に家族が突然ぶつかってきてブスッ、ペットの猫が急に飛びかかってきてズボッと、耳かき棒や綿

棒が耳の奥に入り、耳の中を傷つけたり、鼓膜を突き破ったりするトラブルが後を絶たないという。獨協医大耳鼻咽喉・頭頸部外科の深美准教授は「耳掃除をする時は十分に気を付けて、誰もいない所で行うのが基本」と訴える。3月3日の「耳の日」を前に、日頃の耳掃除時の環境を見直してみよう。

（外山雅子）

難聴、めまい 手術の場合も



性があるトラブルが、ツチ骨、キヌタ骨、アブミ骨からなる耳小骨のうちどれかが外れてしまう「外傷性耳小骨離断」。耳小骨は音を伝える役割があるため、損傷すると難聴になり、これも手術が必要となる。

耳の奥まで刺さらなくても、外耳が傷つくこともある。鼓膜を突き破る「外傷性鼓膜穿孔」で、開いた穴は自然と閉じることが多いが、閉じな

い場合は手術する。また外耳道を引っかけて出血する「外耳道損傷」が原因で化膿することもある。これらの場合は、まず近所の耳鼻科で診てもらって安心だ。

耳には耳あかを外に排出する自浄作用があるため、頻繁に耳掃除を行う必要はない。しかし耳あかが多くなると、聞こえが悪くなるケースもある。子どもは耳掃除を嫌がり、暴れる場合もあるので、特に注意を払いながら行う。耳鼻科で耳あかを取ってもらうこともできる。

26日、耳の無料相談会 宇都宮

日本耳鼻咽喉科学会県地方部会は26日、「耳の日無料相談会」を東武宇都宮百貨店4階駐車場入り口で行う。

相談医は、佐野厚生総合病院耳鼻咽喉科稲木香苗医師、自治医大耳鼻咽喉科今吉正一郎医師、獨協医大耳鼻咽喉・頭頸部外科井上大介医師。時間は午前11時～午後4時（受け付けは午後3時半まで）。